

プログラム番号	06008
---------	-------

平成18年度「国費外国人留学生(研究留学生)の優先配置を行う特別プログラム」

【1. 大学の概要】

①大学名 研究科名	東京大学大学院農学生命科学研究科		
②学長名	総長 小宮山 宏		
③所在地	〒113-8657 東京都文京区弥生1-1-1		
④担当者 連絡先	所属部局・職名	農学系教務課留学生担当専門職員	
	担当者氏名	尾登 敏子	e-mailアドレス ryugaku@ofc.a.u-tokyo.ac.jp
	電話・FAX番号	Tel:03-5841-5485 Fax. 03-5841-5485	
⑤ホームページ URL	http://www.a.u-tokyo.ac.jp/english/oicehp-e/welcome.html (英語) http://www.a.u-tokyo.ac.jp/oicehp-j/youkoso.html (日本語)		
⑥大学院在学留学生数	1988人(うち、国費留学生 795人)		

【2. プログラムの概略】

①プログラムの名称	農学生命科学研究高度化特別コース
②プログラムの形態	博士課程(3年間) (獣医学専攻は4年間)
③実施研究科・専攻	大学院農学生命科学研究科 生産・環境生物学 専攻
	(所在地) 〒113-8657 東京都文京区弥生1-1-1
④連携大学・研究科・専攻名	森林科学専攻、農学・資源経済学専攻、農学国際専攻、応用生命化学専攻、応用生命工学専攻、生物・環境工学専攻、応用動物科学専攻、獣医学専攻、水圏生物科学専攻、生物材料科学専攻、生圏システム学専攻
⑤受入れ学生数	10人(うち研究留学生優先配置人数: 5人) (うち日本人学生数: 0人)
⑥担当教員数	合計 180人(うち専任: 180人、兼任: 0人、非常勤: 0人)
⑦研究科長(代表者)名	所属部局・職名 大学院農学生命科学研究科・教授
	研究科長名 會田 勝美

【3. プログラムの内容】

プログラムの趣旨と目的

本学大学院農学生命科学研究科において実施されている研究分野は、農学の現場に根ざしたフィールド科学から生命科学の先端的研究を含むきわめて広い分野をカバーしている。中でもフィールド科学はその根幹であり、**今後の農業の伸展、特にアジアにおける農業の発展は、世界的にもきわめて重要なテーマであり、本研究科としても、様々な形で従来から連携した研究がなされてきた。**

今回始まる農業生命科学高度化特別コースは、東京大学農学生命科学研究科における各分野の基礎的・先進的成果を踏まえて、**アジアを中心とする国々の農学生命科学分野のトップクラスの大学・機関、あるいは本学ないし本研究科と国際交流協定を締結している大学等から博士の学位取得を目指す優秀な人材を受け入れるために設立されたものである。**

本プログラムでは、受け入れた人材が博士の学位を取得後、**それぞれの出身国／出身大学等において、農学生命科学分野におけるリーダーとなり、本研究科と密接な連携を諮ってアジア地域の農学生命科学発展に貢献することを大きな目的としている。**したがって、本プログラムでは、申請者がそれぞれの大学／機関で既に研究職ないし教育職を有している人材の採用を優先する。

教育・研究指導体制

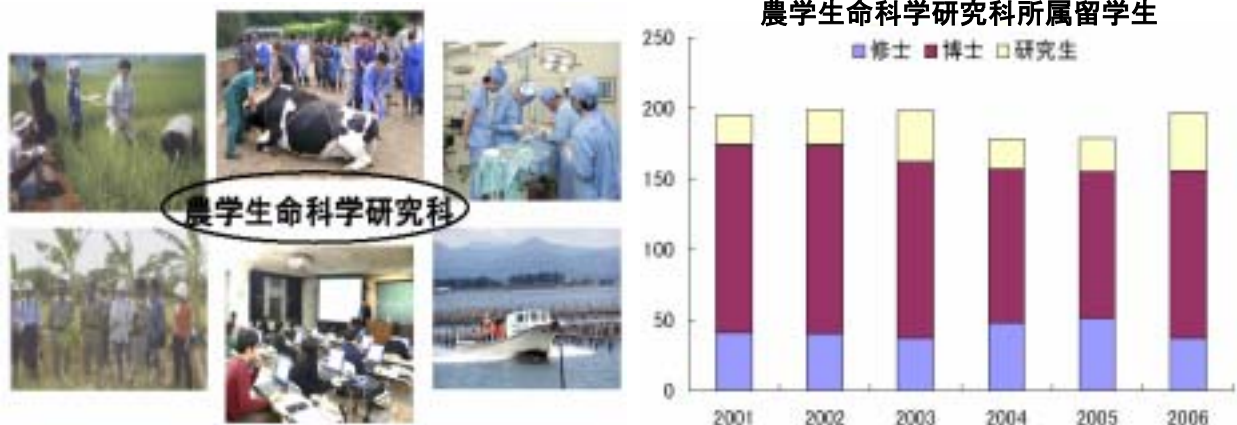
本研究科では、日本の農学生命科学をリードする多くの研究が活発に行われている。これらに関する情報は、本研究科のホームページから得ることもできるが、同時に、現在締結されている交流協定に基づいた交流を通して、候補者が所属する教員等からも、より確実な情報を得ることができる。**本コースに応募する候補者は、必ずこれらの情報を基に、応募前に本研究科教員とその研究テーマ等に関して十分に協議して応募することが求められている。**

このような協議をもとに、このコースの留学生に対しては、よりスムーズに希望する研究に入り、期限内に博士の学位が取得できるような指導体制がとられる。**また、各研究室における教育・研究指導は英語をもとに実施される。**

一方、本研究科には**国際交流室**が設置されており、**現在そこには本研究科の元留学生が専任講師として常駐し、留学生の様々なカウンセリングと手助けをしている。**国際交流室はこの教員と3名の教員から構成され、留学生の大学生活環境の改善に努力している。また、国際交流室では、**留学生向けの各種情報を日・英両国語で国際交流室ホームページに掲示**している。さらに、留学生が日本の生活に慣れ、留学生同士あるいは日本人学生との交流促進を図るために、**毎年、懇話会・懇親会、見学旅行等**も行っている。また、国際交流室が中心となって、日常生活に必要な日本語に関しても、**研究科独自にボランティアによる日本語教室を開始**しており、そこで、研究の合間をみて日本語習得を可能にしている。留学生係は学生サービスセンターの受付窓口で事務部職員を配置し、留学生が事務手続きを行う際の利便性を図っている。

このような体制により、希望するテーマで期限内に学位を取り、出身大学／機関に戻り、その後は、本研究科との連携の核になるよう、指導することも、このコースの特徴の一つである。

図1:農学生命科学研究科の現状



- 学術的な、フィールド向け、社会的・グローバルな見地
- しっかりとした最新の研究を支える研究環境
- 競合的で専門的な、面倒見の良い教員
- 国際交流室が提供する日本での生活や学業に関するカウンセリングやサポート
- 学生サービスセンター一カ所での各事務手続きを可能にする“ワンストップサービス”
- “言語バリアフリー”方針

図4:本プログラムの概要・目的と期待

